

都市再生検討会議(第2回)

●事例集

○歴史・文化	P 1～P 5
○商業	P 6
○産業	P 7～P28
○医療	P29～P33
○平和	P34・P35
○その他	
景観	P36～P43
環境	P44・P45
新技術	P46～P49
●文献・データ資料	P50～P53

歴史・文化：世界遺産の事例

白川郷・五箇山（富山県南砺市・岐阜県白川村）

○世界遺産白川郷・五箇山合掌造り集落を核とした観光振興

○地域住民の発意と熱意によるまちづくり

⇒ 安定的に200万人の観光客が訪問

～主な取り組み～

- ・世界遺産合掌造り集落

地域住民による景観保全を継続



- ・利賀そば祭り

体験型・滞在型ツーリズムの核である施設「そばの郷」により通年型観光づくり



- ・豊かな自然の学校体感

地域に根ざした環境教育を広く展開

- ・瞑想の郷

そばの原産地であるネパールとの交流



～経緯～

- S60 第1回利賀そば祭り
- H2 複合施設「そばの郷」オープン
- H3 ネパール文化発信施設「瞑想の郷」オープン
- H4 世界そば博覧会開催
- H7 世界遺産登録
- H16 景観条例制定（白川村）

歴史・文化：世界遺産の事例

熊野古道（三重県・奈良県・和歌山県）

- 「語り部」とともに体験する世界遺産熊野古道の魅力
- 外国人やシニア層が安心して一人歩きできる観光地づくり
⇒ 古道の「語り部」の利用 約400人から6,000人に増加

～主な取り組み～

- ・「語り部」による熊野古道体験
若年層や外国語対応など語り部の育成
ボランティアなどによる古道の維持保存
- ・熊野川の景観整備
官民一体となった地域住民参加型の新たな
観光地づくり
- ・安全安心な観光地情報の提供
標柱設置により古道利用者への情報提供と
安全確保
- ・宿泊拠点の再生
温泉地における外国人向けへの対応
(接客マナー、パンフレット作成)



～経緯～

- S61 本宮町語り部会結成
 - H2 「ふれあい紀州路歴史の道キャン
ペーン熊野古道ピア」開催
 - H11 ジャパンエキスポ南紀熊野体験博
 - H14 語り部「十津川鼓動の会」結成
 - H16 世界遺産登録国際シンポジウム
祈りの道展開催
- 出典：地域いきいき観光まちづくり100/国土交通省



2

歴史・文化：世界遺産の事例

高野山（和歌山県高野町）

- 1200年の法灯を受け継ぐ霊場高野山を活かした観光地づくり
- 真言密教の歴史と文化を外国人に発信
観光客数：約112万人（H10）⇒ 約123万人（H17）
外国人宿泊者数：約0.5万人（H10）⇒ 約1.3万人（H17）

～主な取り組み～

- ・宿坊で体験観光
地精進料理、朝の勤行、写経・阿字観教室
など様々な体験メニューを提供
- ・散策ルート整備
古くから多くの巡礼者が歩いた道を、
案内標識設置などにより散策コースを整備
- ・観光ガイドシステムの導入
5カ国語の音声ガイドとガイドブックの配付
- ・特産品づくり
新しいレシピの開発により高野山ブランド確立



～経緯～

- H2 電線類地中化事業開始
- H16 世界遺産登録
- H17 高野山駅舎などが有形文化財に指定
- H18 5カ国語対応音声ガイドシステム導入
(英・仏・中・韓・日)



ごまどうふ



みやげもの



収容風景

3

出典：地域いきいき観光まちづくり100/国土交通省

歴史・文化：世界遺産の事例

世界遺産

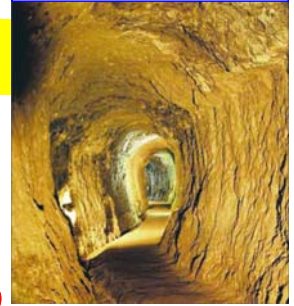
石見銀山（島根県大田市）

- 官民協働による石見銀山の保全と活用
- 住民主体で行う「まちづくり」と「おもてなし」

ボランティアガイド利用者：

約3,000人（H12）⇒10,000人超（H17）

観光客数：約290,000人（H14）⇒約813,200人（H20）



～主な取り組み～

- ・歴史を活かした町並みの保存
官民協働による町並み保存・活用を長期間継続
- ・わらしべ（観光）カリスマ
町にあるあらゆる素材をデザインすることをコンセプトにした異業種ネットワークを通じ、住民意識を高め、観光客増加に貢献
- ・石見銀山ガイドの会
接遇マナー向上や歴史・文化の学習によるガイド資質向上に努める
- ・石見銀山を未来に引き継ぐために
遺産の価値を未来に引き継いでいくために、保全と活用の両立を目指した分科会やワークショップなどを継続



～経緯～

- S32 大森町文化財保存会結成
- S44 国史跡に指定（鉱山遺跡では日本初）
- S62 重要伝統的建造物群保存地区に選定（大森の町並み）
- H12 「石見銀山観光ボランティアガイドの会」発足
- H14 港湾部が国史跡に追加指定
- H15 NPO法人 納川の会 設立（空家の有効利用、音楽会開催など）
- H16 重要伝統的建造物群保存地区に選定（温泉津の町並み）
- H17 石見銀山景観保全令施行
石見銀山協働会議設置
- H19 世界遺産登録

4

出典：地域いきいき観光まちづくり100/国土交通省

歴史：国内の事例

呉（広島県呉市）

- 大和ミュージアムの集客力と、「大和」の背景となる歴史全体で観光地づくりを推進
- 総観光客数：約227万人（H15）⇒約475万人（H19）



～主な取り組み～

- ・呉市海事歴史資料館
「大和ミュージアム」
呉の歴史でもある造船・製鋼などの「科学技術」の生活・文化を紹介。平和や科学の学習素材として近隣の体験学習施設等と連携
- ・二次交通等の整備
観光資源を結ぶループバス、ボンネットバスで巡るルートツアー、瀬戸内海クルーズ船の運航など観光地のネットワーク化を推進
- ・FC（フィルム）ミッションによる情報発信
映画・テレビ等の撮影を誘致し、映像を通じて地域イメージを全国へ発信
- ・ボランティアガイドによる観光案内
エリア毎に市民ボランティアガイドが対応
増加する観光客に対応するため養成講座等を開催し、受け入れ態勢を充実



～経緯～

- H12 呉観光ボランティアの会設立
- H13 まちかど観光案内所開設
ボンネットバスツアー運行開始
- H15 呉地域FC設立
- H16 観光タクシーの運行開始
- H17 呉市海事歴史資料館
「大和ミュージアム」開館
「観光元年」と位置づけキャッチフレーズ 制定
- H18 「優秀観光地づくり賞」
(社)日本観光協会会長賞受賞

5

出典：地域いきいき観光まちづくり100/国土交通省

商業観光のまちづくり

唐戸市場（山口県下関市）

- 一大グルメブームに乗った観光地へ
- 近年、外国人観光客にも人気の観光スポットとして注目

総観光客数（唐戸地区） 約283万人（H16）⇒ 約306万人（H20）



～経緯～

- H7 「唐戸市場朝市」開始
- H13 新市場の建替により、新築移転

～主な取り組み～

- ・全国的に珍しい販売形態として、一般消費者や観光客へも販売
- ・市場に親しみ、交流してもらうため、年二回の唐戸市場まつりを実施

出典：唐戸市場業者連合組合HP 6

産業観光のまちづくり

築地市場（東京都中央区）

- 世界一の魚市場の街として、国際的な観光地へ
- 近年、外国人にも人気の観光スポットとして注目され、外国人観光客が急増

外国人旅行者（東京都） 約449万人（H17）⇒ 約533万人（H19）



～経緯～

- T12 「中央卸売市場法」制定
- S10 「築地市場」開設

～主な取り組み～

- ・外国人観光客を対象とした「築地インフォメーションセンター」設置
- ・安全な築地市場内外の見学のため、専門ガイドが案内するツアーを運営
- ・「早朝セリ見学コース」「場内外見学コース」をはじめ、多彩なコースを設定

出典：築地魚河岸ガイドツアーHP 7

産業観光のまちづくり

神奈川県川崎市

○日本を代表するコンビナートであり、観光とは無縁とされていた地域
 ○各種製造現場だけでなく、ゼロエミッション団地や大学キャンパス、
 企業ミュージアムといった異種の資源を組み合わせた産業観光を推進
 → 会員数38企業・団体、22施設が見学可能、年間約60万人の観光客

～主な取り組み～

- ・ 新たな顧客価値の創出
「工場夜景ジャングルツーリズム」や船を利用した水辺からのアプローチなど
- ・ 地域住民への意識向上
「産業観光検定試験」や市営バスを利用した「産業モニターツアー」などを定期的の実施
- ・ その他
プロモーションツールの作成、教育旅行の誘致、グッズのブランド化など



JFEスチールモニターツアー



東芝科学館モニターツアー

～経緯～

- H17 「川崎産業観光推進協議会」発足
- H18 「スタディーツーリズムの勧め」制作
- H19 「川崎産業観光検定試験」実施
- 第2回「産業観光まちづくり大賞」銀賞受賞
(川崎産業観光振興協議会)

8

出典：産業観光ガイドHP

産業観光のまちづくり：企業博物館

麒麟横浜ビアビレッジ（神奈川県横浜市）

- ビールセミナー
- レストラン
- ビールづくり体験教室



ブルワリーツアー

ビール製造工程の見学

パブブルワリー、レストラン

できたてのビールが味わえる



9

出典：麒麟横浜ビアビレッジHP

産業観光のまちづくり

静岡県浜松市

- 車、楽器、オートバイなど魅力的な産業観光資源が集中
- ホンダ、ヤマハなど創業者輩出による“ものづくりDNA”の風土
⇒ 約40ヶ所の産業観光施設、年間約120万人の観光客

～主な取り組み～

・海外市場に向けた積極的なプロモーション
中国瀋陽や大連など海外市場にむけた教育旅行・企業技術視察旅行等を続け、高い実績に繋げている

・中部広域地区でのツアールート造成
浜松地区に限定せず、中部広域地区の広域と連携したツアールートの開拓



ヤマハ来客会館



東海旅客鉄道（株）浜松工場

～経緯～

- H13 「産業観光研究会」立上げ
- H14 「全国産業観光フォーラム」開催
- 第2回「産業観光まちづくり大賞」金賞受賞
(財団法人浜松観光コンベンションビューロー)

10

出典：産業観光ガイドHP

産業観光のまちづくり

愛知県豊橋市三河港

- 自動車産業等の魅力ある観光資源を活かした先行的な観光産業の取り組み
- 産業、農、漁業、特産品、景観、文化等の地域の特色を活かした観光産業の推進



～経緯～

- H16 国土交通省の支援を受け、
三河港自動車産業観光実験を実施

「はじめての三河港体験モニターツアー」
「三河港自動車産業観光モニターツアー」
「港湾地域セミナー」から構成

～主な取り組み～

- ・世界有数の自動車流通港として特色ある産業観光の振興
- ・モニターツアー等の積極的な取り組み

出典：愛知県観光協会HP他 11

産業観光のまちづくり

愛知県名古屋市

- 産官連携による産業観光バスのビジネスモデル構築
- 日本が誇るものづくりの歴史の原点を巡る

～主な産業観光資源～

・トヨタテクノミュージアム産業技術記念館

繊維機械技術と自動車技術の変遷を実物機械等150台他3,000点を展示紹介。図書室、レストラン、ミュージアムショップもある。

・ノリタケの森

ビデオ、食器の製造工程、ミュージアム、森村・大倉記念館、ショッピング、レストラン

・ブラザー工業(株)本社

昭和初期のミシンから現在の主力製品である情報通信機器までのブラザー製品を幅広く展示。その他、世界初のミシン(復刻版)も展示する。目的に合わせたオフィス環境を提案するコーナーでは、最新のプリンティング技術や通信カラオケも体験できる。



～観光スポット～

- ・名古屋城
- ・徳川美術館
- ・東山公園
- ・熱田神宮 など 12

出典：産業観光ガイドHP

産業観光のまちづくり：企業博物館

トヨタテクノミュージアム産業技術記念館 (愛知県名古屋市)

【設立の目的】

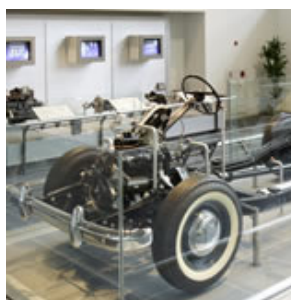
- 「研究と創造の精神」と「モノづくり」の伝承
- 産業遺産の保存と活用

【施設概要】

- 繊維機械技術と自動車技術の変遷を実物機械等150台他3,000点を展示
- 図書室、レストラン、ミュージアムショップ

入館者数 130,600人 (H7) ⇒ 278,400人 (H20)

内、小中高生48,300人 (約17%)



自動車のしくみと構成部品



映像コーナー (新しい車が生まれるまで)



国産技術の確立



バーチャルファクトリー

出典：トヨタテクノミュージアム産業技術記念館HP

産業観光のまちづくり：企業博物館

ノリタケの森（愛知県名古屋市）

【設立の目的】

- 創業100周年記念事業として、陶磁器に関する複合施設オープン
- 名古屋市中心部に約48,000m²の広大な敷地と豊かな緑で構成
 - ・文化と出会う【カルチャーゾーン】
 - ・暮らしを楽しむ【コマーシャルゾーン】
 - ・歴史を感じる【ヒストリカルゾーン】

【見学内容】

- ビデオ、食器の製造工程、ミュージアム、森村・大倉記念館、ショッピング、レストラン



～受賞歴～

- ・平成14年度「名古屋市都市景観賞」
- ・第18回都市公園コンクール「社団法人公園緑地協会会長賞」

(施設・材料・工法部門)

- ・第23回「緑の都市賞」国土交通大臣賞
- ・グッドデザイン賞2003

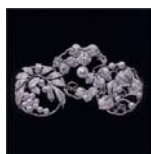
14

出典：ノリタケの森HP

産業観光のまちづくり：企業博物館

ミキモト真珠島（三重県鳥羽市）

- 日本の真珠産業を築いた御木本幸吉が世界で始めて真珠養殖に成功した島にあるテーマパーク
- 真珠ができる仕組み・美術工芸品を展示した「真珠博物館」、ショップ、レストランが入った「パールプラザ」、海底に潜る海女の実演



15

出典：ミキモト真珠島HP

産業観光のまちづくり

愛媛県今治市東予地区

- 「タオルのまち」「造船のまち」として知られる地場産業のまち
- 産業の活性化をまちづくりに結びつけた「ファッションタウン構想」を掲げて産業観光に力を入れている。

総観光客数 約4,630千人(H15) ⇒ 約5,000千人(H16)
※観光数とその消費額(社)愛媛県観光協会より



～経緯～

- H11 進水式見学会実施
- H12 大型商業施設「タオル美術館ASAKURA」開店

～主な取り組み～

- ・タオル産地の情報発信を目的としたタオルメーカー工場見学会
- ・産業遺産を活用したまちおこし

出典：(株)いよぎん地域経済研究センター 16

産業観光のまちづくり

福岡県大牟田市

- かつて、わが国最大の炭鉱であった三池炭鉱の資源を活かした産業観光地へ



～経緯～

- H7 「石炭産業科学館」オープン

～主な取り組み～

- ・石炭で栄えた歴史に触れる、多彩なコース内容を設置
- ・地下400mの坑内(採炭作業現場)を再現(ダイナミックトンネル)

出典：大牟田市石炭産業科学館HP 17

産業観光のまちづくり：海外事例

ドイツ・ルール地域



【地域の概要】

- 面積：4400km²
- 人口：約540万人
- 「IBAエムシャーパークプロジェクト」

の対象：約802km²（17の地方自治体）

【背景】～深刻な社会問題に直面～

- 世界的に最大規模の石炭と鉄鋼の工業都市
- 2つの世界大戦もあり、半ば国策としての開発や施設建設が多数
- 戦後より、エネルギー転換の影響を受け衰退
- 産業構造の転換や生活環境改善の施策は成果なし
- 80年代に鉄鋼業界の事業規模縮小・撤退
- 多くの失業者、広大な遊休地、公害による環境汚染、人口流出など



- 1989年 州が「IBAエムシャーパークプロジェクト」を立上げ（有限会社により10年期限で実施）

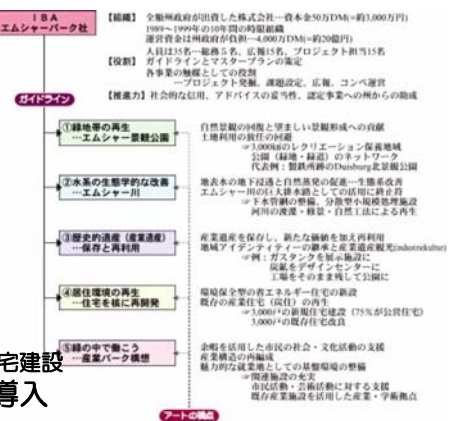
- IBA：国際建設展の略（ドイツの伝統的なまちづくり手法）
- 総事業費約3,500億円（2/3が公的資金）、120件のPJ

18
出典：産業観光への取り組み／（財）日本交通公社
出図：http://www.horonai.com/

産業観光のまちづくり：海外事例

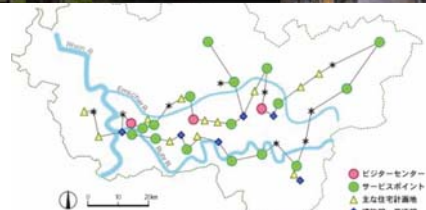
【プロジェクトの主なガイドライン】

- 緑の回遊路と緑の拠点となる景観公園の整備
汚染された河川流域に点在する遊休地や緑地をサイクリングロードや遊歩道で結ぶ
- 工業排水路になっていた河川を自然型河川へ環境復元
汚水処理場、分流式下水の整備により、水質改善を継続的に実施
- 職場環境の研究・学術パークや業務パークとして整備
重工業の衰退で生じた遊休地を、経済面から地域を再生する施設整備
- 居住環境の改善・充実
旧炭鉱住宅改修、公的賃貸住宅建設、エコロジー住宅、低エネルギー・ローコスト住宅建設
- 文化・教育機関の充実、失業者対策、市民活動支援システムの導入
工場労働者の多い地域内で、教育水準の向上や職業訓練による対策
- 産業遺産を結び「route industriegultur（産業遺産の道）」を整備
地域の誇りやシンボルである、産業遺産を文化財として保存、活用



【特徴】

- 産業遺産を巡る約400kmのツアールート「産業文化の道」
- ルート上に25の拠点
- 各拠点施設は独立採算による運営
- 産業博物館のガイド役は地域の人々 → 地域の雇用促進に対応



出典：産業観光への取り組み／（財）日本交通公社
出図：http://www.horonai.com/

産業観光のまちづくり：海外事例

ドイツ

○自動車産業王国であるドイツの注目スポット

～主な取り組み～

- ・メルセデス・ベンツ・ミュージアム

約16,500m³の広さ

約175台が陳列（年代別展示、テーマ別展示、モータースポーツの展示）

- ・BMWワールド

「ポータル館」→BMW車両を中心

「アトラクション館」→ドライビング・トレーニング・プログラムを提供

- ・ポルシェ ライプチヒ工場

工場見学（組み立てライン/ポルシェモデルの展示エリア/展望塔からのテストコース）

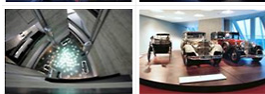
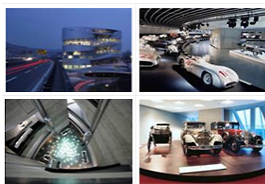
ポルシェ同乗走行体験（プロドライバーが運転）

- ・フォルクスワーゲン“アウトシュタット”

フォルクスワーゲンの歴史の展示

各ブランド（フォルクスワーゲン、アウディ、ランボルギーニなど）パビリオン

⇒ 年間200万人の観光客



出典：JTB HP

産業観光のまちづくり：海外事例

オランダ・ロッテルダム

【ロッテルダム港の産業観光】

コンセプト：「世界一素晴らしい港湾活動とそこで働く人々の生活を見せる」

○港の観光活用を市の事業としている（財団設立）

○ツアー客の受け入れは民間企業（主にRIT社）

○化学工業地帯やコンテナターミナルが観光の主な対象

○造船所、石油コンビナート、海底トンネル、干拓・埋立等もツアーテーマ

【特徴】

○アフリカやアジアなど世界各国より参加者あり（増加傾向）

○企業関連、子供の社会見学・遠足、物流・港湾開発専攻の専門家など

○参加者の20～30%がリピーター

○港湾関連企業や市港湾局などの退職者がガイド役（技術的な説明が可能）



～歴史～

13世紀 集落が形成され、運河建設により商港として発展

1810年 近代港湾として開港（欧州最大・世界第3位）

1997年 国策として港湾を観光で活用する方針を決定し事業展開

出典：産業観光への取り組み／（財）日本交通公社

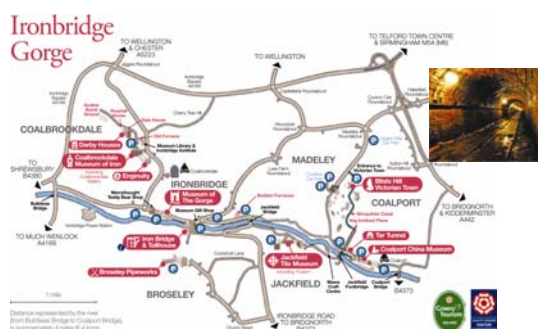
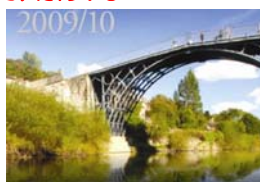
産業観光のまちづくり：海外事例

イギリス・アイアンブリッジ（産業革命発祥の地）

- 運営費は売上、補助、寄付
- 10施設共通パスポートは有効期限なし
(再訪時に利用可能)

～歴史～

- 1709年 産業革命（鉄の製造開始）
- 1781年 アイアンブリッジ建造
(現在も当時のまま保存・活用)
- 1851年 ロンドン万博 その後、寂れゴースタウン状態
- 1965年 宅地開発計画（国の再活性化重点地域の指定）
- 1967年 「博物館都市構想」策定
- 1980年頃 年間10万人
- 1990年頃 年間40万人
- 2003年 年間25万人現在、10の博物館を有する



アイアンブリッジ峡谷博物館の施設概要

①	峡谷のシンボルである「アイアン・ブリッジ」及び橋上の案内所・展示施設で構成
②	ビクトリア王朝時代の町並みを再現 周辺に高炉跡、精錬所跡、物資を輸送したインクライン等の遺構が残されている
③	派生産業の一つである陶器製品の展示、陶器の製造実演や製造体験
④	石炭採掘の坑道の一部を公開
⑤	派生産業の一つであるタイル製品の展示
⑥	アイアン・ブリッジ峡谷の歴史を紹介
⑦	当時使用していた建物を活用し、アブラハム・ダービー一世が手がけた鉄の製造方法の紹介、その後の製鉄技術の推移、当時の鉄製品の展示など
⑧	アブラハム・ダービーの生家において、ダービー一家の歴史などを紹介
⑨	派生産業の一つであるパイプ製品の展示、当時の素材である粘土を用いたパイプづくりの実演
⑩	かつてのレンガ倉庫を活用した、子供向けの環境・リサイクルをテーマとした遊戯施設

出典：産業観光への取り組み／（財）日本交通公社
出図：施設リーフレット

産業観光のまちづくり：クルーズ

クルーズで賑わう起点港（マイアミ、バンクーバー）

○マイアミ港

- ・金、土、日曜日は5～7隻が出航
- ・クルーズの地域経済への波及効果は1兆円/年
- ・45,000人の雇用を創出



○バンクーバー港

- ・アラスカクルーズの起点港
- ・定期クルーズが設定されているため、夏季限定（4月中旬から10月中旬）にも関わらず、寄港数は年間250隻を超える



出典：PORTMETROVANCOUVER

産業観光のまちづくり：クルーズ

クルーズ船造船所～活気のある欧州の造船所～

- クルーズ船の三大造船所
- ・フィンカンティエリ（イタリア）
 - ・マイヤー・ベルフト（ドイツ）
 - ・STX欧州（ノルウェー）



出典：マイヤー・ベルフト社 24

産業観光のまちづくり：クルーズ

国内クルーズの事例 飛んでクルーズ北海道

- ・フライ&クルーズの先進事例（千歳空港⇒クルーズ⇒女満別空港など）
- ・5日間で利尻、礼文、知床を周遊（片道3日間のコースも可能）
- ・利用者は4往復で約2,700人（H20）
- ・利用者の7割以上はクルーズ初乗船者 ⇒ クルーズ人口拡大に寄与



スケジュール			
日 程	船名	出帆	入港
8/27(木)	小樽	18:00	
8/28(金)	利尻	08:00	17:00
8/29(土)	網走	08:30	15:30
8/30(日)	礼文	08:00	17:00
8/31(月)	小樽	09:00	18:00
9/01(火)	利尻	08:00	17:00
9/02(水)	網走	08:30	15:30
9/03(木)	礼文	08:00	17:00
9/04(金)	小樽	09:00	18:00
9/05(土)	利尻	08:00	17:00
9/06(日)	網走	08:30	15:30
9/07(月)	礼文	08:00	17:00
9/08(火)	小樽	09:00	—
9/11(金)	小樽	18:00	
9/12(土)	利尻	08:00	17:00
9/13(日)	網走	08:30	15:30
9/14(月)	礼文	08:00	17:00
9/15(火)	小樽	09:00	—



出典：
商船三井客船 JTB
飛んでクルーズ北海道

産業観光のまちづくり：クルーズ

外国船にとって初の試み

ロイヤル・カリビアン
・インターナショナル

5月2・10日出航

8泊

9万8千円～

集客目標3,150人



クルーズ界の帝王が、ついに日本にウインク!

22万トン客船誕生の次は

「横浜発着」

しかも9万8,000円から

※5月10日発 9万8千円～

出展：CRUSE2009.9 海事プレス社発行

産業観光のまちづくり：クルーズ

長崎港に寄港した国際クルーズの例

- ・国際観光船の大型化に対応するために、平成17年度に延伸改良工事着手した松が枝地区の岸壁が、平成20年11月に工事完成し、10万総トン級に対応。
- ・同岸壁の供用開始に合わせて、2007年12月に初就航したばかりの「クイーン・ヴィクトリア」（総トン数90,049トン）が、日本初寄港として長崎港に入港。



(主な寄港地)

ニューヨーク、ロサンゼルス、ホノルル、オークランド、シドニー、サイパン、長崎、上海、香港、バンコク、シンガポール、ブーケット、ドバイ、イスタンブール、ローマ、バルセロナ、サウザンプトン



産業観光のまちづくり：クルーズ

国内クルーズの事例～観光クルーズ船寄港奄美市～

- ・南西諸島を巡るクルーズ船は名瀬市に観光船専用岸壁が完成したH16年から目立ち始めた。
- ・来島者：寄港8回、約2,800人(H16) ⇒ 寄港9回、約3,400人(H17)
- ・経済効果：交通費、飲食費、土産品代含め年間1億1000万円（H19年度）



奄美市の取り組み等

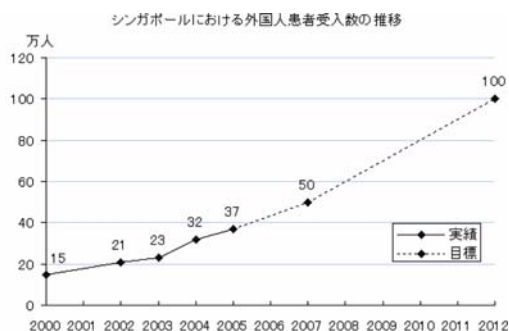
- ・早朝に入港し、夕方に退港（滞在時間10時間前後）
- ・バスなどの島内観光
- ・岸壁での歓迎セレモニー、臨時の特産品売り場が賑わう。

出典：
西日本新聞HP

医療観光のまちづくり

メディカルツーリズムの概要

- 「観光」と「医療サービス」をセットにしたパッケージツアー
- 一流ホテル並みの施設・サービス&高度な医療技術&低価格
- 医療費が高額な欧米患者が、医療費の安いアジア諸国に渡航（インド・シンガポール・タイ・マレーシアなどが主流）
- いずれも政府主導で医療拠点づくりをすすめる
- 日本では、保険制度（自己負担3割）があり、割安感がなく普及せず（但し臓器移植、国内未承認新薬使用、美容整形などの保険外診療は別）



(注)シンガポール経済開発庁WEBサイトより
(資料)経済産業省「平成19年版通商白書」

シンガポールでは急増し、将来100万人ともいわれる目標がある

メディカルを分類すると、治療目的から美容、健康増進までに分類される



＜図1＞「ヘルスツーリズム」の諸形態



出典：経済産業省
「平成19年度版通商白書」
ほか

医療観光のまちづくり

脳トレツアーで観光再生～長野県茅野市～

- 「脳年齢測定テスト」と「自然体験」をセットにしたツアー
- 霧ヶ峰の最高峰、車山（標高1925m）で実施
- 経済産業省の「サービス産業創出支援事業」として、約7,260万円の補助金を受けてH18.6にスタート
- 観光客数1,000人（H18年度）→約1.5倍以上（H19.11現在）



経済的な狙いは、10年前に比べて観光客が100万人も減った茅野市の観光産業の再生

・モデルタイムスケジュール

- 自然体験ツアー出発前に、
- 1) 第1回目の脳テストをビジターセンターにて行って頂きます。
 - 2) 第1回目の脳テストの結果をプリントアウトしますので、大事に保管下さい。
 - 3) いよいよ自然体験ツアー（約2時間）に出発です。車山・霧ヶ峰などの大自然を満喫下さい。童心に帰って楽しんで、少しきつめのウォーキングで身体を使うことが肝心です。
 - 4) 自然体験ツアーから帰ってこられましたら、ご昼食「健脳御膳」をお楽しみ下さい。
 - 5) 第2回目の脳テストを行います。
 - 6) 2回目のテスト結果と1回目のテスト結果を比較して下さい。脳年齢が若返ってれば自然体験によって脳が活性化されたのがわかります！



出典：車山高原HPほか

医療観光のまちづくり

糖尿病教育観光ツアー（熊野古道）

糖尿病専門のお医者さんで行く **熊野古道** 申込締切 **5月8日(金)**
醤油発祥の地&白浜
 ～和歌山の食のルーツを探る旅～
 羽田空港発着 和歌山発着
2泊3日 2009年5月29日(金)～31日(日)

予防と治療がわかる！糖尿病教育観光ツアー
旅のポイント！

- ・ウォーキングは「ゆったり・しっかり」から選べます。
- ・一人一人に合わせた療養指導の実施
- ・和歌山の食材や味覚を楽しみながらの個別食事指導
- ・運動療法指導士と楽しむ、ウォーキングや室内運動
- ・専門医とじっくり話せる座談会やセミナーの開催
- ・糖尿病専門医を始めとした各専門課家が同行する充実医療体制



ツアー行程

日程	内容	食事	宿泊地
1日目 5/29(金)	※羽田空港発着のお客様は、ANA141便(羽田7:25発)で関西空港(8:40着)へ 集合---昼食---みかんの花咲く熊野古道ウォーキング---醤油発祥の地蔵元・土蔵の街並み保存地区めぐり---宿泊先[夕食=健康セミナー(和医大・南條学長ノわかりやすい糖尿病のお話し)=フリータイム]	昼・夕	みなべ温泉
2日目 5/30(土)	梅林ウォーキング・梅干し工場見学---昼食---白浜名勝観光・白良浜ビーチウォーキング---宿泊先[健康セミナー(ウォーキングと食事のお話し)=夕食=フリータイム]	朝・昼・夕	白浜温泉
3日目 5/31(日)	熊野古道中辺路ウォーキング---昼食---とれとれ市場(お買い物)---解散 ※羽田空港発着のお客様は、関西空港からANA148便(関空19:45発)で羽田空港(21:00着)へ	朝・昼	

※予定は変更する場合がございます。
 ※雨天の場合は、ウォーキングが室内運動になります。

出典：中紀バス・中紀バス観光社HP

医療観光のまちづくり

グルメディカルツアー（三重県）

○「美味しい！ C型肝炎と脂肪肝 治療食の旅」

⇒ 豊かな自然と、おいしい食事と、ためになるお話



～ツアー内容の例～

スケジュール

10月29日（日）	
14:00～	チェックイン
15:00	集合 「イン・ボディ」による健康診断
16:00～16:05	桑名市民病院 足立幸彦院長 挨拶
16:05～16:45	三重大学医学部付属病院消化器・肝臓内科 垣内雅彦助教授 セミナー
16:45～17:10	屋上ヘタ日を眺めに
17:10～18:00	大阪厚生年金病院 片山和宏内科部長 セミナー
18:00～18:15	質疑応答
18:15～18:35	三重大学付属病院 栄養管理部 岩田加寿子管理栄養士 イン・ボディ&レシピ解説
18:45～20:30	超豪華ディナー
20:30～21:30	個々の患者さんの相談会
10月30日（月）	
7:00～ 9:30	朝食 「イン・ボディ」による健康診断つづき
～10:00	チェックアウト
10:00～12:00	観光 おご湾遊覧船にて優雅にクルージング 真珠工場見学
12:00～13:00	各自、昼食 解散



32

出典：http://gourmedical.net

医療観光のまちづくり

マルタ島（地中海）

○非常に高い水準の専門家を誇る

○「医療標準は欧州の要求レベルを上回り、健康レベルや全体的な健康システムのパフォーマンスに関して、マルタは多くの諸国の中でも高い位置にランクされている」（世界健康レポート 2007）

○多数の言語を話せるドクターや看護婦

○病院の快適レベルが極めて高く、費用面においても競争力あり

○欧州との優れたフライト接続環境

○空港からヘルスケアセンターやホテルなどへの移動距離が短い。

○大部分のクリニックは都心に位置し、必要な施設の大部分は徒歩圏内

⇒ 「地中海の病院」と呼ばれる



33

出典：http://www.visitmalta.com

平和のまちづくり

ヒロシマ平和学習体験ツアー（広島市）



○日本各地で受け入れている海外の高校留学生等が対象
 ○核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指す被爆地ヒロシマに招き、
 平和について考える機会の提供、広島市の国際交流推進に寄与

～主な内容～

- ・ 平和学習事業
被爆証言の聴講、平和記念施設の視察、意見交換など
- ・ 青少年交流事業
広島市内で活動する青少年グループとの交流
- ・ ホームステイ事業
ホストファミリー募集要綱により、申込のあった家庭に滞在し、相互の国際交流、異文化理解



日時	活動内容	場所	備考
1 8-17(金) 16:30 17:00 17:30 18:00	受付(ホストファミリー/留学生) オリエンテーション 対面式 解散 ホームステイ体験	広島市留学生会館	ホストファミリー出迎え ※夕食は各家庭でお願います。
2 8-18(土)	ホームステイ体験	-	AFS 主催企画はありません。
3 8-19(日) 午前/午後 16:00 夕刻 夜 22:00	ホームステイ体験 集合 オリエンテーション 夕食 アイスブレキнг 就寝	- 広島駅南口地下広場 広島ユースホステル	
4 8-20(月) 午前 15:00 夕刻 夜 22:00	起床/朝食 広島平和文化センター 理事長訪問 他団体との交流会 平和セッション① 平和学習施設訪問 夕食 平和セッション② 就寝	平和文化センター 国際青年会館 大本営跡・中国軍管区司令部地下壕跡(広島城) 広島ユースホステル	※国際青年会館の協力による 折り紙アクティビティ ※途中で昼食をとる。 ディスカッション
5 8-21(火) 午前 午後 夕刻 夜 22:00	起床/朝食 平和記念公園散策 戦時中の食事体験 平和記念資料館見学 被爆証言聴講 意見交換会 夕食 平和セッション③ 帰省準備 就寝	平和記念公園 平和記念資料館 追悼平和祈念館 広島ユースホステル	※広島女学院高校の協力による ※平和記念資料館の協力による ディスカッション
6 8-22(水) 午前	起床/朝食 帰省	JR 広島駅もしくは、 広島バスセンター	

出典：(財)AFS日本協会HP

平和のまちづくり

平和学習（沖縄県那覇市）※修学旅行向け

○悲惨な地上戦を経験した沖縄。沖縄県内には、平和について考えるための施設や場所が、数多く存在。二度と戦争が起こらないよう、祈願して建てられた資料館をはじめ、今なお残る戦争の爪あとを通して、今一度平和の尊さについて考える。

～平和祈念公園周辺の平和学習コース例～

(1) 戦跡コース

- ・ 平和祈念堂 → 韓国人慰霊塔 → 摩文仁の丘（国立戦没者墓苑，慰霊塔等） → 平和の礎 → 県立平和祈念資料館 → ひめゆり散華跡（荒崎海岸） → 轟壕

(2) 歴史・文化コース

- ・ 平和祈念堂 → ジョン万次郎上陸地（大度海岸） → 亀甲墓 → 具志頭城跡 → 富盛石彫大獅子
- ・ 平和祈念堂 → 糸数城跡 → 受水走水 → 斎場御獄



平和学習の一般的なプログラム

- (1) 映画鑑賞（沖縄戦記録映画）
- (2) 開会のことば（生徒代表）
- (3) お話
- (4) 黙祷
- (5) 平和へのメッセージ（誓いの言葉）
- (6) 千羽鶴の献納又は献花
- (7) 引率者代表挨拶
- (8) 閉会のことば（生徒代表）

※なお、語りべの方々を招いての講演やミュージシャンを招いての平和祈念コンサートを行う学校も多くあり

景観：自然景観観光の事例

東オホーツク（北海道網走市他5町）

- 知床世界自然遺産を最大限に活かして、国際的な観光地へ
- 冬季資源（流水観光など）を活かした通年型観光の推進

外国人宿泊者数 約6,000人(H9) ⇒ 約22,000人(H17)
冬季入込客数 約63万人(H元) ⇒ 約102万人(H17)



～経緯～

H3 流水船「オーロラ」の運航開始
H17 シーニックバイウェイの指定
知床が世界自然遺産の登録

～主な取り組み～

- ・シーニックバイウェイで地域活性化
- ・体験クルーズなど観光メニューの可能性検証
- ・ビューポイントパーキングの整備

出典：観光庁HP
地域いきいき観光まちづくり 36

景観：港湾都市の事例

小樽（北海道小樽市）

- 歴史的建造物・街並みと運河を活かして、国際的な観光地へ
 - 誰でも参加できる、手づくり型の冬のイベントを通して通年型観光地へ
- 観光入込客数：約273万人（S61）⇒ 約756万人（H17）

～主な取り組み～

・小樽運河の再生

市が埋立てを計画していた小樽運河を景観資源とするため、散策路の整備や浄化対策を推進。周辺では石造倉庫を活かした商業施設など官民協働のまちづくりが進行

・小樽雪あかりの路

冬に弱い小樽観光の方策としてスノーキャンドルを街中に灯すイベントを開催

・しりべし/ネットと/センター

IT普及を契機に、官民協働のポータルサイトを開設し、地域に密着した情報提供と情報発信拠点として観光案内所を設置

・大型クルーズ船の寄港

クルーズ船旅行への注目に合わせ、誘致活動を展開。2万トン以上のクルーズ船の寄港が4回(H13)→11回(H18)へ大幅増加



～経緯～

- S48 石造倉庫群解体を契機に「小樽運河を守る会」発足
- S58 小樽市歴史的建造物及び景観地区保全条例制定
- S61 小樽運河散策路完成（景観地区指定）
- H02 観光物産プラザ、マリナーオープン
- H04 まちづくり景観条例制定
- H11 小樽雪あかりの路開催
- H16 小樽一舞鶴間に高速フェリー就航

37

出典：地域いきいき観光まちづくり100/国土交通省



景観：まちなみ整備の事例

出島と小樽運河との比較

〔出島〕 観光客数 年間約39万人



(整備前)



〔小樽運河〕

○ 運河周辺と調和した街並みの整備

観光客数 年間約500万人

※ 小樽市観光客数

昭和61年 191万人

→ 平成19年 740万人

(549万人増加 3.9倍)

(整備後)



景観：港湾都市の事例

函館（北海道函館市）

○ まちなみ景観、温泉、食、海、歴史文化等、多彩な観光資源が凝縮

○ 東アジアからも観光地として注目され、チャーター便が急増

チャーター便：6便・1,600人（H11）⇒ 627便・87,000人（H19）

～主な取り組み～

- ・ 歴史的建造物の保存・整備
市・建物オーナー・市民グループなど多様な主体が貴重な財産と認識し保存活動を展開
最も重要な観光資源として定着
- ・ 市民創作「函館野外劇」
五稜郭商店街の活性化策として始められ、近年では旅行会社のツアー商品へ定着
- ・ 水産業と観光を結ぶ朝市の取組
市民向けの朝市を、観光客を意識した取り組みにより年間200万人の観光スポットに定着
- ・ はこだてクリスマスファンタジー
冬季観光の低迷改善より始めたイルミネーションイベントで、入込客数に大きく貢献
- ・ バル街
西部地区活性化のため、市民有志がスペインの「バル街」に見立てたイベントを創設



～経緯～

- S63 青函トンネル開通
- 函館市歴史的景観条例施行
- H1 重要伝統的建造物群保存地区に選定（元町末広町）
- 国際観光都市宣言採択
- H10 クリスマスファンタジー開催
- H16 「バル街」開催
- 函館市夜景グレードアップ構想制定

※日本三大夜景 長崎（稲佐山）、函館（函館山）、神戸（麻耶山）
世界三大夜景 函館、香港（ビクトリアパーク）、ナポリ（ポジリポの丘）

景観：港湾都市の事例

三国湊（福井県坂井市）

○みなとまちとして栄えた町並みや歴史文化のブランド化

○行政、地元企業、NPO等が一体となって観光振興を推進

⇒ **歴史・文化を目的とした観光客数が2万人増加（H13→H17）**

～主な取り組み～

・観光拠点「三国湊座」

各ツアーの受付、甘味処、名産・物産販売、文化イベントなどの発信



・三国湊回遊水上バス

東尋坊周遊クルージングツアーの企画・運航



・三国湊の歴史文化散策

大正時代の銀行や港町旧家の町並みのガイドツアーを企画
市民ボランティアがガイド役



・三国体験エコツアー

磯の生物観察、農産物収穫、工芸・特産品の製作、郷土芸能体験など
参加者の評価は高い



～経緯～

H9 旧森田銀行本店

国の登録有形文化財に登録

H13 まちづくり推進協議会が活動開始

H15 三国湊突堤（エッセル堤）

国の重要文化財に登録

H16 「三国湊魅力づくりプロジェクト

実行委員会」活動開始

各種ツアーが始まる

H17 遊覧船の試験運航（社会実験）

H18 三国湊座オープン

40

出典：地域いきいき観光まちづくり100/国土交通省



景観：港湾都市の事例

下関（山口県下関市）

○「壇ノ浦合戦」「巖流島の決闘」などの歴史体感ツールによる観光振興

○海峡を活かした広域観光を推進

観光入込客数：約290万人（H12）⇒ 約340万人（H16）

海峡花火大会：100万人以上の来場（北九州市含）

～主な取り組み～

・海峡を活かした広域観光の推進

関門海峡を一つの観光資源として取り組む、水族館やカモンワーフなどのウォーターフロント整備と併せ「唐戸市場」を全面改修。改修を契機に観光資源として注目される
H15には新たな滞在型観光を目指す「下関海峡パノラマ構想」を官民協働で立案



～経緯～

S63 関門海峡花火大会実施

（北九州市と提携）

H8 長府の歴史的町並み保全取り組み

「観光都市宣言」

H9 関門海峡観光推進協議会設立

（下関市、北九州市、山口県）

H13 水族館「海響館」、新「唐戸市場」

H14 ヨッピーモール「カモンワーフ」

H15 巖流島整備完了

H16 「全国都市再生イン下関」開催

（海峡を活かした広域観光まちづくり）

41

出典：地域いきいき観光まちづくり100/国土交通省

・城下町長府の景観保全と活用

住民らが街づくり協定を締結し、観光地としての魅力と住民のやすらぎを両立する町並み保全を推進



・歴史体感型観光ツールの開発

源平合戦、武蔵・小次郎の決闘、幕末の奇兵隊など、日本の歴史が動く時、スポットライトを浴びてきた下関の観光資源を活かし、歴史体感型観光ツールを開発し、リピーター獲得を目指す



景観：港湾都市の事例

門司港（福岡県北九州市）

- 明治・大正期の歴史的建造物とウォーターフロント景観を活用
- 下関市と連携し、共通リーフレット製作、共同イベント開催
- 地元住民、民間、行政が力を結集

平成7年3月のグランドオープン後、劇的に増加

観光客数：約25万人（H6）⇒約107万人（H7）⇒約231万人（H16）

～主な取り組み～

- ・門司港レトロ路地裏ガイド
市が主体の観光案内ボランティア制度
観光客にも好評
- ・関門海峡周遊バス
関門海峡観光推進協議会が主体となり、
宿泊者を観光スポットへガイド付で無料運行
- ・ご当地グルメの発掘
「焼きカレー」を代表格として
20店舗以上で展開。
各店のオリジナルもあり
- ・歴史的建造物の活用
源平多数存在する海運会社のビルや料亭を、
居酒屋やカフェ、旅館等に改築し再活用
- ・年間200を超えるイベントを開催



～経緯～

- S63 門司港レトロ第1期事業開始（～H6）
- H7 門司港レトログランドオープン
- H9 関門海峡観光推進協議会設立
（下関市、北九州市、山口県）
門司港レトロ第2期事業開始
- H11 「海峡プラザ」オープン
- H13 門司港レトロナイトファンタジー整備
- H15 「海峡ドラマシップ」開館
「九州鉄道記念館」開館
- H16 関門海峡周遊バス運行開始
- H17 門司港レトロ路地裏ガイド開始⁴²

出典：地域いきいき観光まちづくり100／国土交通省

景観：まちなみ景観整備による観光の事例

大分県豊後高田市

- 歴史文化、建築物、まち並み景観を活かした観光地へ



～経緯～

- H13 「昭和の町」着手

～主な取り組み～

- ・「昭和の再生」をテーマに建築、歴史、商品、商人を整備、保存
- ・町の案内人を設置することによる町の魅力向上



出典：豊後高田昭和のまちHP 43

環境に配慮したまちづくり：海外事例LRT

交通結節点でのLRTの導入事例

都市軸への導入



高い加減速性能を生かし、安全にトランジットモジュールを走るLRT
(ドイツ ブレメン)



ナント(仏)

ストラスブール(仏)



出展：まちづくりと一体となったLRT導入ガイダンスより

環境に配慮したまちづくり：海外事例LRT

中心市街地と周辺部の連携

海外のパーク&ライド駐車場事例

活用のイメージ箇所

LRTの終着駅の駐車場ビル (フランス ナント)

都心環状道路外側の平面駐車場 (フランス ストラスブール)



海外のパーク&ライド料金

都市名	LRT料金	パーク&ライド料金
ストラスブール(仏)	約140円	約300~340円(LRTの往復料金込み) →実質駐車料金20~60円
オルレアン(仏)	約150円	約375円(LRT往復料金込み) →実質駐車料金75円
フライブルグ(独)	約230円	パーク&ライド利用者の駐車料金：無料
ポートランド(米)	約200円*	パーク&ライド利用者の駐車料金：無料

*国際空港~都心の場合約200円。都心部では無料。

出展：まちづくりと一体となったLRT導入ガイダンスより

新技術の活用事例 「五島まるごとEV&ITS」 未来型ドライブ観光



「五島まるごとEV&ITS」:未来型ドライブ観光

- ① 新幹線で長崎駅に到着、駅前からジェットfoilなどで五島へ直行
 - ② 五島福江港など到着地でEVレンタカーが出迎え（シップ&EVライド）
 - ③ カーナビで自由に観光コースを設定
 - ④ 世界遺産に登録された教会群をクリーンに巡る旅に出発
 - ⑤ カーナビが最初の目的地「堂崎教会」へ誘導（所要時間20分）
※走行中に、目的地の紹介や特産品などを音声で紹介
 - ⑥ 堂崎教会を見学中、EV専用駐車場では急速充電（30分）
 - ⑦ 各種オプションツアーを選択、カーナビが目的地に誘導
 - ⑧ 船の出航時刻に間に合うようカーナビが港ターミナルまで誘導
 - ⑨ 港でレンタカーを返却、レンタル料のほかお土産代など滞在経費も併せて精算
- © 2008 Europa Technologies

電気自動車で五島活性化

低炭素社会の実現に向け電気自動車など「次世代自動車」の普及を目指している県は24日、五島地区に本年度中、電気自動車のレンタカーを100台規模で導入することを明らかにした。島の観光情報などを発信する高度道路交通システム（ITS）と連動した未来型のドライブ観光システムで、島の活性化を図る。

**レンタカー
100台を導入
県、年度内に**

県は、電気自動車の導入で同地区内の観光振興や格差是正など課題解決を図りたい考え。例えば、世界遺産の本登録を目指す同地区内の「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」。本登録には、景観や環境保全が重視されるため、環境負荷を極力抑えた電気自動車の導入で環境先進地であることを全国的にアピールする構え。本土より約1.5倍高いガソリン代の格差是正も期待される。

ITS連動 未来型の観光提供

また、電気自動車にはETC（自動料金収受システム）を發展させたITSを搭載。これによって観光地への道案内や道路の渋滞、対向車の接近状況も発信し、未来型の観光ドライブで地域の活性化を図る。

同日、県と地域振興に関する連携協定を結ぶ慶応義塾大の川嶋弘尚理工学部教授らが県庁を訪ね、同教授はITSについての世界的権威といわれ、電気自動車導入に伴う現地調査のため五島地区入りした。

その他

新技術の活用事例

東京オリンピックバーチャルシステム

○2016年東京オリンピック招致MRシステムの開発

- ・スタジアム建設予定地にて完成予想のCG画像を合成するシステム
- ・平成21年4月17日にIOC評価委員会の会場視察において使用
- ・東京大学大学院池内研究室が設立したベンチャー企業(株)アスカラボと東京大学が共同開発



出典：(株)アスカラボHP
プレスリリース資料

48

その他

新技術の活用事例

DMV（デュアルモードビークル）

○JR北海道と国土交通省が共同開発した、ゴムタイヤを駆動輪として、**道路上とレール上の双方を走行**できる輸送システム

- ・H15 JR北海道が開発に着手
- ・H18 国土交通省とJR北海道が共同検討会を設置
- ・H19 釧路線浜小清水駅～藻琴駅間（約1.1km）で試験的営業運行

○特徴

- ・運営費、維持費の削減（燃費、保守費ともに鉄道車両の**約1/4**）
- ・車両コストの削減（購入費が鉄道車両の**約1/7**）
- ・鉄道とバスへの乗継の解消

○実証運行

- ・平成20年3月熊本県高森町及び南阿蘇村において実施
- ・沿線集落や公共施設等との連携による地域公共交通活性化および沿線観光地との連携による観光活性化を検証
- ・試乗の結果として、日常利用では**確実性（定時性、運行頻度）**、観光利用では**快適性（乗り心地）**が重視



出典：YOMIURI ONLINE
国土省総合政策局HP

49

文献・データ資料

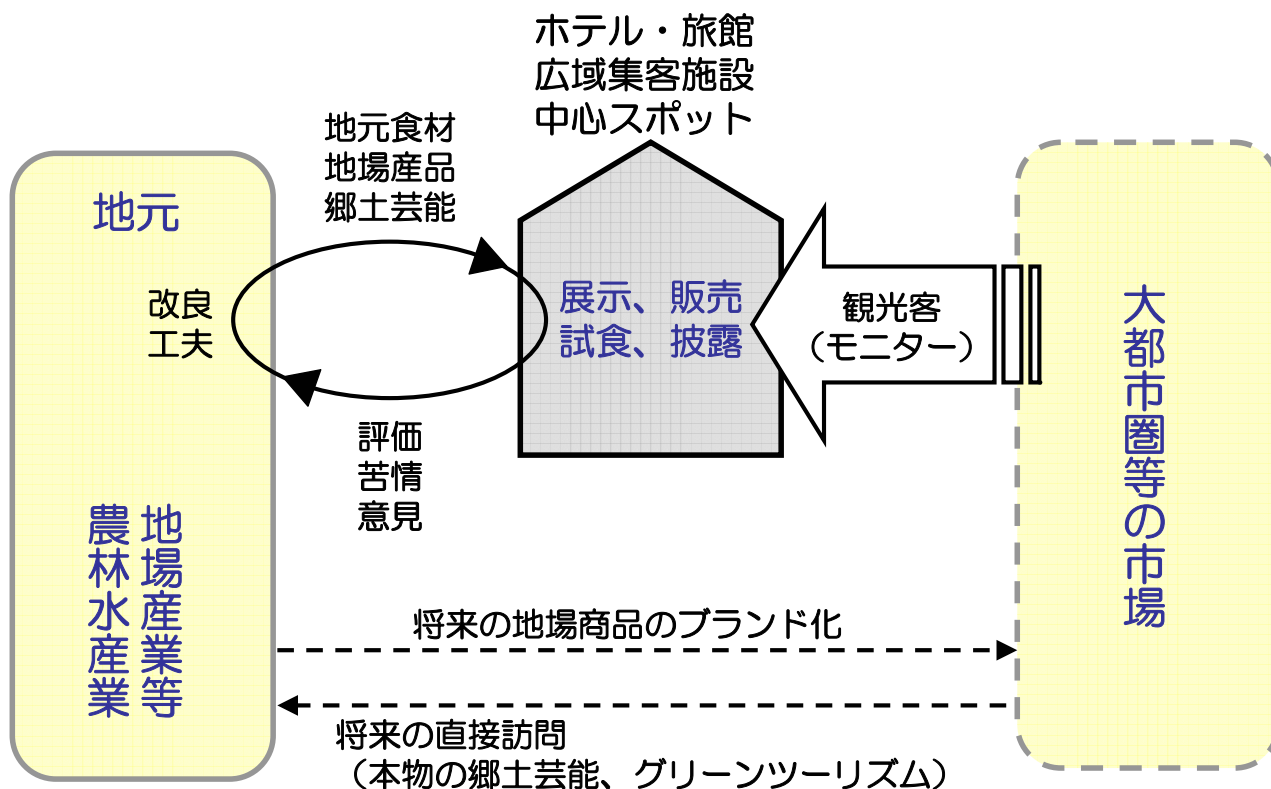
50

タイプ別にみた産業観光推進モデル

産業観光モデル	内容
タイプ① 「工場見学型」	研修・視察など、見学自体に高い目的を持った来訪者を受け入れるほか、ビジネスに直結する取引先や新規顧客などへの説明の場としての活用、直接自社製品をPRする場として一般消費者の見学も受け入れるパターン。研修・視察などの受け入れにおいては、人材育成の側面にも意義を見出す。
タイプ② 「産業振興型」	企業が工場見学受け入れ、企業博物館の公開などを行うことによって、幅広い来訪者を受け入れ、一企業のPRにとどまらず、産地としてのPRや産地ブランドの継続などに効果を発揮するパターン。来訪者からの意見を反映した新商品開発、来訪者の増加による地域活性化にもつながるケースもみられる。
タイプ③ 「一般観光型」	来訪者を限定せず、広く一般観光客を受け入れるパターン。より多くの来訪者(消費者)を受け入れることにより、直接的な商品・製品のPR、企業文化の紹介のほか、物販店や飲食店を設け観光事業として成立するものもある。旅行会社との連携や、周辺観光施設・地元観光協会との連携による積極的な情報発信・集客活動が見られる。
タイプ④ 「モノ作り人材育成型」	地元社会への貢献として、主に小中学生の総合学習・社会見学などを受け入れ、企業活動や製品に対する理解を促進するとともに、教育的な効果をもたらすパターン。また、従業員の家族に対する工場見学受け入れや、企業・工場内を活用した地域向けイベントなどの開催により、地域住民との相互理解・協働関係を生み出す。
タイプ⑤ 「リクルーティング型」	企業を公開することにより、企業への関心を高め、人材を確保することを目的とするパターン。小中学生の社会見学などもその一環でもあるが、むしろ、大学生・高専等、直接的にリクルーティングに結びつく対象を受け入れることに効果を発揮するパターン。

51

観光・集客関連施設のショールーム化

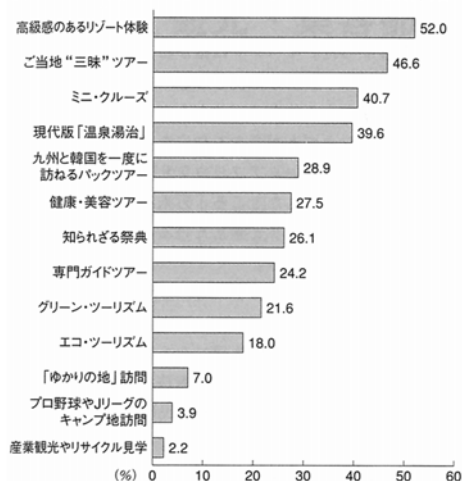


52

出典：2003年版九州経済白書「新しい観光・集客戦略」

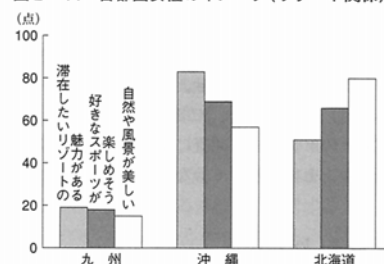
九州のリゾートとしてのPR強化を・・・

図 2-13 首都圏の女性が九州で参加してみたい旅行内容



注) N=356
資料) 九経調「首都圏の女性の九州観光イメージアンケート」
(九経調作成)

図 2-14 首都圏女性のイメージ(リゾート関係)



注) 1位=100点、2位=50点、3位&未回答=0点として点数を合計し、サンプル数で割る。もし、全員が1位回答なら100点
資料) 九経調「首都圏の女性の九州観光イメージアンケート」
(九経調作成)

- ・高級リゾートへの潜在需要は高い（リゾート体験、ミニ・クルーズなど）
- ・しかし他の地域と比べると、九州でのリゾートは魅力に欠けている

53

出典：2003年版九州経済白書「新しい観光・集客戦略」